

内閣府青年国際交流事業の特色

目的：「国際社会・地域社会で活躍する次世代グローバル・リーダー」の育成

- ① 国際協調の精神やリーダーシップを持った青年の育成
- ② 青年の社会貢献活動等の促進（事後活動）
- ③ 青年相互の友好と理解の促進，人的つながりの形成

事業強化の視点

育成すべき青年の人材像

- ① 未来志向（Future）
- ② 国際・地域感覚（Glocality）
- ③ 多様性（Diversity）
- ④ コラボレーション（Collaboration）
- ⑤ 社会貢献（Contribution）

3つの局面と事業強化の視点

〈募集選考段階〉 意欲の高い青年の参加を募る

育成すべき人材像に即した選考と広報強化
様々な人が参加しやすい環境の整備（日程の設定等）

〈事業実施段階〉 効果的なプログラムを実施する

国の事業としての特色のある事業設計
密度の高い交流環境の創造
様々な人が参加しやすい環境の整備（プログラムの整備等）

〈事後活動段階〉 グローバル・ネットワークを生かして事後活動を継続する
同窓会組織，既参加青年ネットワークの強化・見える化

新たなプログラムの方向性

- ✓ 意欲の高い青年の参加に向けた「プログラムの魅力向上」，「仕事・学業との両立が可能なプログラムの設計」，「広報の強化，選考の充実，多様性重視枠の創設」
- ✓ 「船上での共同生活」と「実践の場」を組み合わせたプログラム構成
- ✓ 長期の閉鎖空間によるリスクを回避
- ✓ 上記の観点から，船上で共同生活しながら，国内の複数の地域に入って社会実践活動を行う形式により実施
- ✓ デジタルなど新たな技術も活用しながら，チームビルディングなどのオンライン交流を充実
- ✓ 地域の社会実践活動には，地方公共団体や同窓会組織（IYEO）と積極的に連携
- ✓ その他，事業強化の視点を踏まえた評価を行い，運営体制の充実も図りながら，事業の充実を図る。

(次世代グローバル・リーダーに求められる5つの要素)

① 未来志向 (Future)

現在の国際社会においては、SDGsを始めとする未来を見据えた地球規模の課題への取組が重視されている。次世代グローバル・リーダーは、現在に至る歩みや足元の課題だけではなく、50年後、100年後の未来を語れることが求められる。

② 国際・地域感覚(Glocality)

地球規模の課題解決に向けた行動を図る上では、グローバルな視点を持つとともに、その課題に直面している現場（地域）の視点の感覚を持ち、課題解決を具体的な行動につなげる実践力を持つことが求められる。

③ 多様性(Diversity)

各分野にわたる困難な課題を未来志向で解決していくためには、多様な知恵や考え方をもち寄ることが不可欠であり、国籍はもちろんのこと、地域、性別、障害の有無、業種・分野等に関わらず、異なる存在を受容する力を持ち、相手の立場に立って行動することが求められる。

④ コラボレーション(Collaboration)

異なる多様な意見を課題解決につなげていくためには、互いを尊重しつつ目標を共有し、その実現に向かい、関係する全ての人が力を結集し、行動に移すことができるよう、多様な意見をまとめること又は必要に応じて自らの役割を見出すことが求められる。

⑤ 社会貢献(Contribution)

自らの経験を広く社会に還元していくという精神を持ち、努力を惜しまず、社会課題の解決を図っていくための活動を継続的に行うことが求められる。

青年国際交流事業の在り方検討会報告書 ～令和の新たなプログラムと事業強化の視点～

令和4年7月

【STEP1】 募集選考段階	【STEP2】事業実施段階			【STEP3】 事後活動段階
	(1) 関係構築	(2) 交流と実践	(3) 振り返り	
<p>① 青年が参加しやすい魅力あるプログラムの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事・学業との両立が可能となる日程の分散化（週末オンライン交流【数カ月～半年程度】＋集中対面交流【2～3週間程度】） ・ 社会人向け短期プログラム導入の検討 ・ 企業側から見て、魅力あるプログラムの発信 ・ 企業の研修制度との連携に向けた検討 <p>② 青年に響く広報コンテンツ、手法の充実・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ショート動画等の広報コンテンツ作成 ・ インフルエンサーとの協力等による YouTube や SNS 等での戦略的発信 ・ 経済界、大学等への広報強化 <p>③ 次世代リーダーとしての活動意欲、継続的な事業参画を重視した選考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 語学力の習得等を主の目的とせず、次世代リーダーとしての活躍を目指す者を総合評価で選考 ・ 自身が今後どのように行動し成長していきたいかを示す「将来設計書」等の提出 ・ 語学力が十分でない者に対する語学力習得に向けた措置の検討 <p>④ 多様性重視枠の創設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文化・芸術やものづくりなどの個別分野で活躍する者等の参加を想定した多様性重視枠の創設 ・ 語学力が十分でない者に対する語学力習得に向けた措置の検討（再掲） 	<p>① 目標設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業参加前に参加青年が各々の目標を設定 ・ オンライン交流の後、対面交流前に目標の再設定の機会 <p>② 有識者による講義、グループディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SDGs など世界共通の課題について学習 ・ 課題に対する国内外の多様な考え方を吸収するためのグループディスカッションを実施 ・ 外国政府や既参加青年等のリーダーとのオンライン上での面会を検討 <p>③ 文化交流・アクティビティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の発見・再認識と関係性構築を図るため、オンライン空間での文化交流、ダンスや料理などのアクティビティ実施を検討 <p>④ 自由な交流機会の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別かつ自由な会話が可能となるメタバース空間等を活用して、参加青年間の自由な交流機会を確保 <p>⑤ 地域実践活動プランニング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定の地域を題材に、相互理解の増進、実践力を醸成するためのチームビルディングをオンライン上で実施 ・ 5～6名程度のチームを構成し、特定の地域を題材に地域実践活動をプランニング ・ 地域実践活動に参加してもらう既参加青年や世界各地で同種の活動をしている既参加青年にプランニングへの協力・参画を依頼 	<p>① 共同生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 船をベースキャンプとする日本参加青年・外国参加青年による共同生活（2～3週間程度） ・ 新型コロナウイルス感染症等のリスク低減、仕事・学業との両立を図りつつ、実践活動の日数確保の観点から、国内数か所を船で周遊 ・ 国内の社会人等向けに、国内寄港地からの途中参加を可能とする等の短期プログラム導入も検討 ・ 地域実践活動プランニングの継続 <p>② 地域訪問活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマを設定し、そのテーマに相応しい日本国内の地域数か所に寄港し、地方公共団体や地域の NPO、既参加青年等の協力・参加の下、日本の地域を紹介、体験、意見交換 ・ 既参加青年や地域の青年・住民を招いて交流を行うオープンシッププログラムの開催 <p>③ 地域実践活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域 1 か所に寄港、一定期間（1週間から10日程度）停泊し、現地に入り活動 ・ 地方公共団体の協力の下、地域の NPO、既参加青年と協力・連携して、プランニングした活動を実践 ・ 既参加青年や地域の青年・住民を招いて交流を行うオープンシッププログラムの開催 <p>④ 表敬等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 政府や地域のリーダーへの表敬、意見交換 	<p>① ラップアップセッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業終了後に、「将来設計書（STEP1）」や「目標設定（STEP2(1)）」について、自己評価し、将来の社会像と自身の行動計画を作成 ・ 地域での実践活動等により得た課題について再度検討 ・ 上記の検討につき、オンライン空間も活用して、青年間で共有・ディスカッション <p>② 事業報告会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業横断的な事業報告会で、既参加青年がまとめた事業成果を発表 <p>③ フォローアップ交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業参加数年後に、リアル・バーチャルのハイブリッドによるフォローアップ交流を実施 	<p>① 世代を超えた交流機会の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既参加青年のデータベースを整備し、参加青年間のアクセスを容易に ・ 既参加青年を集めた国際会議への協力・支援 <p>② 既参加青年のプログラムへの参画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域実践活動やオンライン交流への既参加青年の積極的な参加を募り、継続的な参画機会を確保 <p>③ 地方公共団体との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地方公共団体とのプログラムへの協力をきっかけに、地域の国際交流事業と内閣府事業との連携を図り、ネットワークを強化 <p>④ 事後活動の見える化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ IYEO ダッシュボードと協力して、事業参加後の活動情報を収集、データベース化して、対外的に発信